

◆教員養成の教育の質の向上に係る取り組み

□教員養成に関する質の向上の取り組み

21世紀では、グローバル化、情報科、超高齢社会化等が急激に進むに連れて、これまでにない新たな教育課題が生まれてくる。そうした課題に対して柔軟に対応していくためには、教員の資質能力の質の向上を図ることを考える必要がある。そのため、本学としては次のような取り組みを行っている。

(1) 組織改革

本学で教職を取得する学生は、各学年40人前後であり、これまで教職は資格課程の中の一つとして特に組織がなかった。教職に関する問題や今後の課題に対応するために、資格課程の中に「教職課程運営委員会」を設置することにした。これにより問題への対応だけでなく、各学科の専門教育との連携を強化する等、教職課程の質の向上について検討していく。

(2) 附属学校、横浜市等の教育委員会との連携

本学には、附属の中学校・高等学校が設置されており、教職実践演習での現場の状況の理解、教育実習の受け入れ、附属学校の教師による授業などの連携を行うことで、現場への理解を深めている。また、本学は横浜市と連携協働の協定を結んでいることもあり、アシスタントティーチャーの派遣等を行っており、こうした活動を通して現場への理解を深める機会としている。

(3) 相談活動

本学は小規模の教職課程であるが、その分教職を取得している学生と身近に接することができる環境にある。そのため、授業の中での学生の様子をもとに声をかけたり、進路に向けての相談に応じたりすることを日常的に行っている。そうした中で、学生の教職への希望を実現すると同時に、他の進路への変更についてもより良い方向に進めるように支援している。

(4) ポートフォリオの作成

本学では4年次の教職実践演習において、これまでの教職を中心とした大学での学びや体験を凝縮ポートフォリオとしてまとめることで、教職への資質向上を図っている。そのために、毎年の学びや体験をポートフォリオとして積み重ねていくことを行っている。ポートフォリオを作成することを通して、教職への希望をより現実的なものにすると同時に、自己理解を図ることを考えている。